



国民の森林・国有林

令和元年度 第2回 高層湿原保全対策検討会を開催



検討会の様子

12月24日鹿児島市内において「令和元年度第2回屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会」を開催しました。

この検討会は、日本最南端の高層湿原である花之江河及び小花之江河の状態が急激に変化しつつあることから、湿原の現状及び

湿原が形成されたプロセスを把握した上で実効性の高い保全対策等の検討を行うこととして、平成30年度に設置されたもので、水文学・湿原地質の学識経験者や環境省、林野庁(事務局)、鹿児島県、屋久島町の行政機関等で構成されています。

検討会では令和元年度に実施したモニタリング調査、試行的保全対策等についての間報告、令和2年度に実施するモニタリング調査等及び令和2年度の検討会予定について議論しました。



挨拶をする河邊計画課長

出席者からは、「今年度から調査を始めたばかりだが、地質調査の結果、湿原としては貧栄養な土壌であることや、地盤がかなり複雑であるなど、新たな情報が得られつつある」「新たな情報を踏まえ、調査計画を見直す必要がある」など活発な意見や質問が出されました。

高層湿原の成立や遷移などが解明されれば、適切な保全対策を行う大事な資料となります。

今回の検討結果については、2月16日に開催される第2回屋久島世界遺産地域科学委員会にて報告される予定です。

担当：計画課

森林教室を開催

【西都児湯森林管理署】ケースタディ地区の木城町において、12月18日木城町立木城小学校5年生の児童45名を対象に、木城町森林づくり活性化推進チーム(西都児湯森林管理署、木城町役場、宮崎県児湯農林振興局、児湯広域森林組合)による森林教室を開催しました。

今回の森林教室は森林・林業と仕事をテーマに、森林の役割等についての講話と木工品(本棚)の作成、高性能林業機械による伐倒及び製材工場の現地見学の2部構成で行いました。



森林と仕事の講話を真剣に聞く児童



製材工場を見学

講話では、当署の朝田清子技官が森林の持つ機能や高性能林業機械を利用した最新の林業について講話を行い、説明後は児童たちから活発に質問が飛び交うなど大いに盛り上がりました。

木工品の作成では、釘を打つことなど日頃あまり行う機会のない作業に苦戦していた様子でしたが、子供たち同士で助け合い、職員らに教えてもらいながら、一生懸命に本棚の作成を行っていました。完成後は絵を描いたり個性豊かな本棚に仕上がっていました。

現地見学では、児湯広域森林組合の作業現場において高性能林業機械等による伐倒、玉切り、集材を見学し、伐倒した立木が倒れる迫力に歓声が上がっていました。



本棚を作ったよ！

【宮崎南部森林管理署】1月23日、当署職員の資質の向上を図るため熊本県上益城郡甲

センダンの育成方法を学ぶ

今回の森林教室を通して、森林の役割や林業に関係する仕事をより身近に感じ理解を深めてもらうことで、次世代を担う子供たちの将来の道が広がることを願う一日となりました。

また、製材工場では、運ばれてきた丸太が製品になるまでの一連の流れの説明を受けた後に工場を見学しました。子供たちは、丸太の皮を剥ぎ、乾燥するといった普段見ることのない光景に目を輝かせていました。



19年生のセンダン林

佐町にある熊本県の舞の原試験展示園を訪問し、早生樹「センダン」の育成方法を学習しました。

当署においても昨年3月に三ツ岩オヒスギ遺伝資源希少個体群保護林の近くにセンダンの展示林を設置し、管内の森林所有者へその育成方法等の普及に努めているところですが、普及するに当たり疑問に思っていることを解消するために熊本県林業研究・研修センターの横尾謙一郎育林環境部長からセンダンの試験を行った経緯、優良系統選抜方法、芽かきの方法、病虫獣害、家具材としての需要などについて説明を受けました。

職員から①頂芽が成長しない場合、最上部の側芽を活かすことになるが曲がりの程度②台風による強風の影響③優良苗木の選定方法④連作障害⑤種の採取場所等の質問が出されました。

【屋久島森林生態系保全センター】12月23日、屋久島町立中央中学校からの依頼を受け、屋久島の林業遺産や森林の保全・整備等に関する現状について、屋久島森林管理署と当保全センター1合同で出前授業を行いました。

林業の歴史と保全管理を学ぶ

この学習会を通して、改めて早生樹の成長の早さ及び家具材としての需要の高さを感じました。



育成方法について指導を受ける職員

最初に、当保全センターの山部国広自然再生指導官から、優れた自然景観や特異な生態系など森林生態系の保全の取組みについて説明を行い、次に屋久島署の一口竜也森林技術指導官から、屋久島の林業の歴史と人工林の現状及び森林の再生などについて説明しました。

また、今回の環境教育は、今までにない全校生徒170



生態系管理について講義を行う山部指導官



真剣なまなざしで講義に聞き入る生徒

名が対象ということで、資料作成に大変苦慮しながらも分かりやすく丁寧な説明で、生徒の皆さんからも大変喜ばれました。

生徒からは、「スギ材や土埋木の現状、植生や外来種及び保全活動への取組状況など詳しく知ることができました」と感想をいただき、これからの屋久島の未来について大変興味深く考えていることが感じ取られました。

これからも、多様な生態系の保全管理と併せてバランスのとれた持続可能な屋久島の森林づくりについて広げて行きたいと考えます。

虹ノ松原風致探勝林

クロマツの除間伐体験学習を実施

【佐賀森林管理署】12月21日、唐津市内の虹の松原の国有林において、クロマツの除間伐体験学習を開催しました。

虹の松原は約20ヘクタールの広大な松原で、約100万本のクロマツが生育していると考えられています。静岡県三保松原、福井県の気比の松原とともに日本の三大松原に数えられ、その中で唯一特別名勝に指定されています。

参加し、当署からは5名の職員が指導を行いました。

はじめに津田京子佐賀森林管理署長が虹の松原についての概要説明を行い、続いて、副島利博森林技術指導官、廣石功地域林政調整官及び山部清人唐津森林官による除間伐のデモンストラーションと安全指導を行いました。

今回の体験学習はNPO法人唐津環境防災推進機構KANNE(カンネ)の公募により、地元住民や佐賀県立唐津南高校の生徒など合計17名が

参加者は3班に分かれ、当署職員の指導の下、直径4〜10センチメートルのクロマツをノコギリで伐倒した後、約2メートルの長さに玉切りしました。慣れない作業で苦勞している様子でしたが、約2



挨拶をする津田署長



伐倒方向よーし！



伐倒したクロマツを玉切りしました。

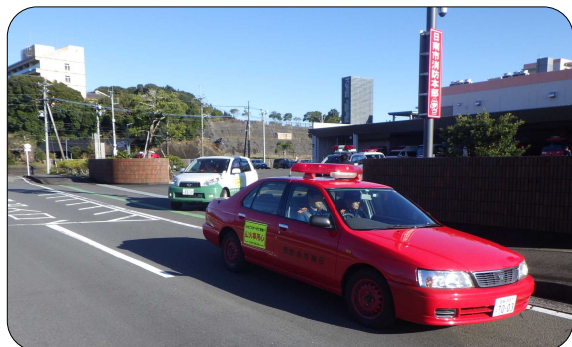
時間の作業で70本のクロマツを伐倒しました。

終了後、参加者から「除間伐は思ったよりも大変で、1、2本伐倒するだけでも疲れた」「除間伐前は暗かった松林に、光が差し込んできて景観が改善された」「クロマツが早く大きくなってほしい」などの感想がありました。

当署としては、今後もクロマツの生育に必要な除間伐をはじめ虹の松原の保全を地域住民の皆さんと協働しながら進めていきます。

日南市林野火災の防火パレードに参加

【宮崎南部森林管理署】日南市林野火災防止対策協議会の



防火パレードに出発！

主催による防火パレードが1月28日にあり、協議会のメンバーである日南市消防本部、日南市、日南警察署、南那珂農林振興局、南那珂森林組合、当署から職員が参加しました。

空気が乾燥し林野火災の発生しやすい時期を迎えるに当たり、より一層の火災予防の周知徹底を期するため市内を3班(海岸方面、北郷方面、南郷方面)に分けて市民のみなさんに注意を呼びかけました。

当署においても、国有林野事業実施中における失火や一般入山者によるたばこの不始末等による火災を防止するため監視を継続していくことにしています。

「宮崎県林業普及指導員課題研修」を実施

ICT技術を活用した取り組みについて

【宮崎森林管理署】12月10日
宮崎森林管理署において、宮崎県内の林業普及指導員等12名を対象とした課題研修を実施しました。

当研修は、宮崎県より依頼を受け初めて実施したもので、当署職員が講師となり、宮崎森林管理署における業務へのICT技術の活用状況、特に

ドローンを活用した業務の効率化等について情報提供を行いました。

取り組む上で、森林所有者や境界の確定作業に森林管理署が導入しているドローン等の活用事例が、市町村を指導する立場の県職員皆様の参考になることを期待している」と

の挨拶の後、まず、下村治雄森林技術指導官から各請負事業や台風被害等業務全般への活用状況の紹介、次に丸橋勝

寿主任森林整備官から山腹崩壊箇所の測量への活用、最後に井崇行森林整備官から収穫調査の効率化について説明を行い、意見交換を行いました。

参加者からは、画像加工等についての具体的な質問や、今後ドローンの導入を予定しており、導入に向けてとても参考になった等の多くの質問がありました。

翌日は、現地研修に同行させて頂き、宮崎県農業試験場で鳥獣被害対策支援センターの取組、西都市の株式会社ハマテックの小型バイオマス発電の視察を行いました。

地域の林業・林産業活性化の為に、これまで以上に宮崎県と連携した取組を進めていく必要があります。今回の研修を通して連携を深めることができ、今後も、機会ある毎に意見交換等の場の開催を約束し閉会となりました。



講義を行う井森林整備官

好徳宮崎森林管理署長より「森林管理署では、国有林の現場で森林調査等にドローン等を活用し、業務の効率化を図っている。今後、新たな森林管理システムとして市町村が民有林の森林管理に



電気柵設置の実習(宮崎県農業試験場)



獣害防止ネット設置の実習(宮崎県農業試験場)

や意見が出ました。研修後は、宮崎県からセンダン等の早生樹植栽等についての情報提供がありました。



小型バイオマス発電施設の視察((株)ハマテック)



私の住んでいる豊後高田市では、宇佐国東地域が「世界農業遺産」に登録されて数年がたちます。この間に私は市役所で農業遺産の中で溜池を担当していた関係で、地元

の中学校で授業をする事になり、授業の資料を収集する過程で農業の豊かな財産の維持には、クヌギ林、その奥の森林が保水するという重要な



谷口 昭徳 さん

様々な情報を知り、地域の活動の中で参考にしていきます。被害の防止のために防護柵を設置する事も重要ですが、集落と森林の間の里山の維持管理のために、15戸足らずの私たちの地区では草刈、間伐などで鳥獣などの隠れ家を作らない、また近づけない取組みを行っています。

地区住民の高齢化など、いろんな課題が山積していますが、地道な作業を続けています。そうした作業の中、ふと目を地面に落としてみると椿、クヌギなどの

「里山のある風景」

役割を担っていることに気づきました。またその一方では全国各地の里山で鳥獣被害により耕作放棄地が急激に増えている現状が報告されています。

そうした時にモニターに応募し各地の取組みなど、実が地面に落下し、小木が芽吹いていました。こうした循環を繰り返し森林は長い月日の中で確実に育っていると感じています。草刈、伐採をする時、気を付けながら作業をしています。また、私は趣味でカントリー家具を時々作りますが、

加工がしやすく、安価で種類も豊富なので、国産材ではなく外材を使用しています。近年は、国産材を住宅などの内装で利用しているようですが、まだまだ他の安価な住宅資材の利用が多いようです。

(豊後高田市在住)

クリーン活動を実施

【鹿児島森林管理署】12月19日、鹿児島市喜入の濁口国有林及び隣接する生見海水浴場内において、当署の職員と鹿児島市役所の職員でクリーン活動を行いました。

作業開始前に、当署から「当該国有林は、毎年鹿児島市に海水浴場として貸付けしている場所及びその周辺の松林であり、夏には多くの海水浴客が訪れるなど地元住民にも親しまれている場所である。清掃することで今後も気持ちよく活用してもらえよう、本日はよろしくお願



作業開始前の安全指導の様子

曇り空の下、松林の草むらや海岸の砂に足を取られながら清掃に精を出し、ペットボトルや空き缶等の一般ゴミを約50kg回収しました。当該地は夏も地元の方が清掃活動を行っていたため、集めたゴミの量は多くはありませんでしたが、今後も地元自治体等と連携をとりながら、不法投棄防止のための取組みを続けていくこととしました。



海岸線の清掃も実施

ます」と挨拶を行うとともに、安全作業のための注意事項を述べました。

職員が感謝状を授与

【宮崎署都城支署】1月8日に、えびの文化センターで開催された「新春地域・交通安全のつどい」で、当支署えびの森林事務所行政専門員境田政照さんに、えびの地区交通安全協会から感謝状が授与されました。

境田さんは、平成24年11月27日に旧加久藤橋で下校中の



感謝状を授与された境田行政専門員

児童3名がひき逃げに逢い重症であった1名が数年後に亡くなるという悲惨な事故があった翌日から、小学校近くの横断歩道に毎朝立ち、旗を振りながら通学する子供たちの見守りを続けてきたことが、交通安全活動に積極的に取組み、安心安全なまちづくりの推進に尽力された功労が称えられ感謝状の授与となりました。

【異動】2月1日付発令
大分署次長
高木勝一【企画調整課】
【退職】1月31日付発令
渋谷昂大【都城支署】
（担当）総務課



「思いやり運転」を実践していきたいと思います。

都会の中の緑の森 監物台樹木園の 多様な植物

147 サルスベリ(シソ科)

サルズベリは真夏の盛りに紅色の花を咲かせ、花期が非常に長いです。種名はサルズベリで、木の肌がつるつるしてサルも滑り落ちるといことから名付けられています。

中国原産の落葉高木で元禄時代に渡

来し、花が綺麗で花の少ない真夏に咲くことから観賞用として庭園で栽培されています。6個の花弁は円形で著しいしわがあり、雄しべは多数ありますが周囲の6本が長くなっており、普通の両生花と

倒卵形、全縁です。時に組み互生(左右2本ずつの互生)になっている場合もありますので葉の付き方は注意深く観察することが大事です。百日紅(サルズベリの別名)の名前の通り、花期が長く7月末から9月まで円錐花序の花穂が伸びながら、花穂の基部から先へ、いつも新しい花を咲かせています。シマサルズベリは南西島に、ヤクシマサルズベリは屋久島に分布しています。



森林インストラクター

安楽 行雄



2020年になりひと月経つが、オーストラリアでは昨年9月頃に発生した森林火災による被害が拡大しており、これまで1千万ha以上の土地が焼け、推定で5億匹以上の野生動物が死んだという▼オーストラリアでは毎年、南半球が夏を迎える12月頃に森林火災が発生するが、昨年はオーストラリア史上最も暑く、最も乾燥した年となったことが、森林火災がここまで深刻化した要因の一つと考えられている。現地では3月にかけて高温と乾燥した状態が続くことが予想されており、火災がさらに長引くおそれがあるという。地球温暖化が進行していることを改めて認識させられる▼重度の火傷を負ったコアラなどの傷ついた野生動物の映像をテレビやインターネットでも見るたび胸が痛み、少しでも助けになればと募金をした▼地球温暖化の影響で、オーストラリアだけでなく、世界各地で森林火災が大規模化、長期化する傾向にあるといわれている。地球温暖化を食い止めるために何ができるのかしっかりと向き合っていきたい。(つ)